

# 経 済 Topics

## ■ 大分県内の最新経済動向について

大分県内の経済は「緩やかに持ち直して」います。乗用車販売や住宅着工では一部に弱さがみられますが、観光業では持ち直しています。雇用情勢は、有効求人倍率が上昇基調にあり、持ち直しの動きが続いています。

## 今回のテーマ

## 2022、2023年度の大分県の経済見通し

### ■ 2022年度の経済見通し

当研究所では毎年この時期に、今年度と次の年度の経済見通しを発表しています。

2022年度の大分県の実質経済成長率は、2.0%増加とプラス成長になる見通しです。

2022年はコロナの影響は残りつつも、社会経済活動の正常化に向けて前進した1年となりました。コロナ前の2019年以来3年ぶりに開催されたお祭りやイベントも多く、人流が活発化し、観光需要の回復や大型商業施設の客足の改善がみられました。

資源高や円安などの影響で生じた値上げラッシュによって、私たちの生活や企業の経営は影響を受けていますが、全体を通してみると、新型コロナウイルス感染症の影響が弱まったことから、2022年度はプラス成長になると考えています。

### ■ 分野ごとの見通し（2022年度）

製造業では、上期は緩やかな持ち直しとなっており、下期も企業の前向きな設備投資への姿勢などから底堅く推移する見通しです。

個人消費は、上期は外出機会の増加で衣料品が改善したほか、人数制限などを設けずに催事が実施されたことで緩やかな持ち直しの動きとなりました。下期も引き続き緩やかな回復基調が続く見通しです。

有効求人倍率の推移をみると、新型コロナウイルス感染症の影響が弱まったことで上昇傾向にあり、年度平均で1.3倍台後半となる見通しです。

観光動向は、前年度を上回る見通しとなっています。上期は3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークや夏休みを迎え、前年比で約6割増加しました。外国人客についても、6月に団体ツアーに限定して受け入れを再開したことで、コロナ前の水準には及びませんが前年同期を大幅に上回りました。下期は、日本人客については全国旅行支援の実施、外国人客については水際対策の大幅な緩和によって増加する見通しで、年度通算でも前年度を上回る見通しです。

## ■2023 年度の経済見通し

2023 年度の大分県の実質経済成長率は、0.8%増加と引き続きプラス成長になる見通しとしました。

2023 年度の県内経済は、年度前半においては物価上昇や海外景気の減速が重石となり、力強さを欠くと予想します。ただし年度後半にかけては、個人消費が底堅く推移することに加え、海外景気の減速が一服すると見込まれることから、徐々に持ち直すと見られます。

## ■分野ごとの見通し（2023 年度）

生産活動は 2022 年度をやや下回ると予想します。ただし、2023 年度の後半にかけて海外景気減速の一服が見込まれることから、下げ幅を縮小させると予想しています。

個人消費は、物価上昇が下押し圧力となるものの、回復基調を維持すると予想しています。所得環境については、サービス業などで人手不足感が高まり緩やかな改善が見込まれるほか、一部の企業では社会的な要請によって賃上げが予想されるなど、緩やかながら改善が見込まれます。

有効求人倍率は、若干上昇する見通しです。建設業、製造業などを中心に人手不足が続くことや、宿泊・飲食サービス業、生活関連サービス業などの対面型の業種が持ち直すことで、有効求人数は上昇することが見込まれます。

観光動向については、政府による感染症対策への整備が進んでいることや、インバウンド需要が回復することによって前年を上回る見通しです。

（提供：(株)大銀経済経営研究所）